

大学をとりまく社会環境と仏教教育

提言：大学に求められているもの

身延山大学学長 仲澤浩祐

今や高等教育への需要は高まり、大学・短大への進学率は45%を越えた。だが、18歳人口は急カーブを描いて減少し、高齢化が進んでいる。かたや情報化、国際化の時代が到来している。このような状況化で大学教育に求められているものは何であろうか。

戦後新制大学が設立され、アメリカ型の教育が導入された。そして平成3年7月「大学設置基準」が改正され、いわば、新新制ともいべき大学が生まれている。この改正は、設置基準の大綱化・簡素化と共に、自己点検・自己評価を柱とするものであり、量から質への転換であった。すなわち設置基準による規制を緩める一方で、各大学に自助努力を求める極めて厳しいものである。この改正によって、大学は否応なしに、大学の理念や運営、カリキュラムや授業などの見直しをせざるを得なくなったのである。

大学の大量化は、大学に多くの変化をもたらした。というより、変わらざるを得ない状況となってきている。つまり学生が、多様な経歴、多様な能力や適性をもって入学し、加えて社会人・留学生などが入学してくる中で、大学教育はどうあるべきか、どう改善していくか、という非常に難しい問題を抱えることとなったのである。

因みに大学審議会では〔高等教育における現状の問題点と今後の課題〕について審議しており、その中の「高等教育の一層の改善について」と題した審議の概要を見ると、

- 1) 高等教育の普及とそれに伴う変化の著しさ
- 2) 急速な学問の進展と教育すべき内容の高度化・専門化
- 3) 社会・経済の急速な変化に対応し得る幅広い視野や総合的な判断力、豊かな創造性を持った人材の養成
- 4) 生涯学習のニーズの高まりに応え得るだけの教育の必要性

の四項目を、大学教育を改善していくための視点として挙げている。

ところで現代は、従来の価値観ではとても測りきれないほどに多面的になった時代であり、情報化した時代である。また消費文化の時代ともいわれ、それに伴って効率性、便利さがもてはやされるようになった。たとえば、マニュアルにしたがってセットしておけば、洗濯物は洗いから濯ぎ、脱水、そして乾燥までしてくれるし、ビデオは好きなテレビドラマや番組を予約しておけば録画してくれるようになり、確かに便利になった。

しかし、個々人はますます孤立化、個別化を深め、自己中心的になってきている。そして自らの頭で考え出す力が欠けている非創造的な学生、困難にあうと投げ出すか、逃げてしまうひ弱な若者たちが多くなった。こうした状況を踏まえて、大学教育をどう行うかということを考えなければならない。今や大衆化した大学にあって大学の教員は、かつてのような独善も孤高も尊大も許されなくなってきている。常に学生と向き合い、学生の求める知識・技術等を提供しなければならないのであり、従来のように研究のみに没頭していることは許されない状況となり、教育的側面が重視させるようになった所以もここにあるといえよう。いずれにしても、就学人口の激減と大学の大衆化、さらには戦後始まって以来の大学設置基準の改正施行により、教育課程の編成を始め、教職員と学生との関係、研究と教育の相互関係が厳しく問われ、大学は大きな転換を余儀なくされている。いわば大学観の転換を求められているのである。

翻って、日蓮宗門は宗祖日蓮聖人の「行学の二道をはげみそうろうべし」を

態して子弟教育を行ってきた。宗門伝統の学則とは、1. 給仕、2. 行法、3. 学問であり、飯高檀林に発する立正大学、西谷檀林に発する身延山短期大学はこれを方針として教育を行ってきた。今日では総合大学として発展した立正大学においては仏教学部でこの精神が語られていることであろうが、昨年発足した身延山大学においてはこの教育方針を柱としてその具体化を図っている。しかし、現状は必ずしも容易ではない。人間の資質が着実に低下し、個別化、没社会化が進み、社会環境が大きく変化し、ますます社会は激動し、混乱を深めている状況に鑑みると、伝統ある子弟教育観をあらためて見つめ直す時期に来ているのではないだろうか。

このような状況の下で、(1) 宗門子弟をどのように育成するか、(2) 仏教教育の社会的役割はいかなるところに求められるか、(3) そして大衆化が進む中で、大学生をどのように育成するか、ということ視野に入れつつ、仏教の精神を踏まえた宗教教育の方向性を問い、殊に宗門の子弟教育と僧道教育の在り方を問い直していきたいと考えるものである。この「大学をとりまく社会環境と仏教教育」が日蓮宗門を始め、仏教教育を施している高等教育機関や寺院にとって、飛躍への端緒を提示するものとなれば幸いである。

大学の大衆化が進む中で、 大学生をどのように育成するか

身延山大学教授 深山正光

1、「大学の大衆化」と「変動する社会」の捉え方について

「大学の大衆化」といういい方が、いつ、どのような事態をさして、どのような意味でいわれたかは定かではないが、高校卒業生のうち、大学・短大への